



福島県 小学校長会 会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
「福島県教育委員会教育長
メッセージ」…………… 2
- 特集「たくましく生き とも
によりよい未来を創っていく
子どもの育成」…………… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる… 11
- 表彰・各部だより…………… 12



福島県小学校長会会長あいさつ

「学校は復興の最大の拠点」の原点に立ち戻って

困難な時だからこそ「校長の学び」を止めない

福島県小学校長会会長 佐藤 秀美

令和3年3月11日、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故から10年が経過しました。人類史上初の複合災害に見舞われた本県の各小学校では、「学校は復興の最大の拠点」の合言葉の下、子どもたちを守りつつ、教育環境の復旧・復興に全力を尽くしてきました。復興は着実にその歩みを進めていますが、今なおふるさとでの学校再開が果たせない地区や極少数での教育活動を余儀なくされている学校があります。根強い風評と急速に進む風化もまた重い課題となっています。

そして、昨年から猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の見通しが立たず、社会全体に不安と閉塞感を与えています。

私たちの仕事は、子どもたちがよりよい社会と幸福な人生の創り手となることができるよう、その土台づくりをすることです。大震災もコロナ禍もいずれも現在進行形の大きな課題ですが、それを克服できるのは「人」しかありません。「学校は復興の最大の拠点」

という県小学校長会の理念は、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学習指導要領改訂の目標と軌を一にするものです。人づくりの根幹を担う私たちは、その矜持を胸にもう一度この原点に立ち戻り、教育活動を充実させることが求められているのだと思います。そのためには、学校の最高責任者である校長が切磋琢磨し、その職能を向上させることが不可欠です。コロナ禍にあって「子どもの学び」を止めないのと同様、困難な時だからこそ「校長の学び」もまた止めてはならない。会員の皆様と共有したい私の思いです。

働き方改革やGIGAスクール構想の実現、新学習指導要領の着実な実施と従来の日本型学校教育を発展させた新しい学校教育の実現など、課題は山積しています。その解決は容易ではありません。しかし、校長会の組織を生かし、これらの課題に果敢に挑戦し続けるプロセスの中でこそ、私たちはより強く、より優しく、より賢くなれる。私はそう考えています。

〈令和3年度 福島県小学校長会第1回理事会開催〉

福島県小学校長会の第1回理事会が4月21日、パルセいいざかにおいて開催されました。会長として福島市立福島第三小学校長 佐藤秀美氏が選出されました。また、新役員として次のとおり決定するとともに、本年度の活動方針などが承認されました。

- 会長 佐藤 秀美 (福島 三)
- 副会長 岩下 聡 (清 明)
- 佐藤 勉 (開 成)
- 石本 浩一 (謹 教)
- 井戸川 浩 (広 野)
- 監事 根本 秀一 (み さ か)
- 渡部 憲生 (関 柴)
- 伏見 康弘 (原 町 一)



教育長メッセージ

子どもたちが安心して学び続ける学校づくりを

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一



はじめに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日々子どもたちの学習支援や心身のケア等のために様々な対応をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、東日本大震災及び原子力発電所事故から10年が過ぎ、時間の経過と共に、震災と原発事故の経験や記憶がない子どもたちが増えておりますが、3.11に学び、伝承していくことはこれからが本番であると考えます。そのため、複合災害の事実や教訓、そして「ふくしまの今」が多くの人々の苦労や努力、支援や挑戦があって成り立っていることを、自らの言葉で説明できる子どもたちを育成する必要があります。

また、人工知能の進化や科学技術の進歩により、仕事の在り方や生活の仕方まで社会が大きく変わろうとしている昨今、子どもたちには、これまで必要とされてきた「知識・技能」はもとより、自ら課題を見つけ、対話と協働により解決していくための「思考力・判断力・表現力」、そして、社会のために尽くそうとする心や困難に負けず前向きに頑張れる心の育成が求められます。

そこで現下の状況を踏まえ、県教育委員会としましては、引き続き国や市町村、関係機関等とも手を携え、「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策をより一層推進することで、子どもたちが安心して、心を動かしながら主体的に学び続けることができるよう支援してまいります。

特に、主要施策1「学力向上に責任を果たす」については、昨年度臨時休業の影響により中止を余儀なくされた「ふくしま学力調査」を、今年度は実施しました。一昨年度と比較した学力の伸びが初めて分かることから、その詳細なデータと指導のポイントを各学校に提供し、個に応じたきめ細かな指導にいかせるように支援してまいります。また、GIGAスクール構想により、一人一台端末の整備が急速に進みました。今後は、ICT機器の有効な活用に向けて、教員のICT活用指導力を強化するための研修を進め、児童生徒の情報活用能力の向上に努めてまいります。

主要施策2「教員の指導力、学校のチーム力の最大化」につきましては、新たに策定した「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」に基づき、教職員の多忙化解消に取り組み、教職員が子どもと向き合う時間や自己研鑽する時間の確保に努めてまいります。

さらに、主要施策5「学びのセーフティネットの構築」につきましても、スクールカウンセラーを継続配置するとともに、不登校への対応として専任の教員を配置したスペシャルサポートルームを増やすなど、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境づくりを進めてまいります。

皆様におかれましては、これらの取組を各学校の実態に応じて効果的に活用し、家庭や地域と密接に連携しながら特色ある教育活動を推進するとともに、業務の効率化や学校のチーム力の最大化を図りながら、子どもたちが安心して学び続け、保護者が信頼して子どもを預けることができる学校づくりに取り組まれますようお願いいたします。

結びとなりますが、皆様が校長としてのリーダーシップを存分に発揮し御活躍されることで、本県の教育が益々充実するとともに、福島県小学校長会が更に発展されますことをお祈りいたします。

耶 地域と共に育つ豊かな心をもった子どもの育成を目指して

喜多方市立関柴小学校 渡部 憲生

1 はじめに

本校は、以前から地域との繋がりが強く、地域の強い教育力に支えられてきた。このような保護者や地域との繋がりを大切にし、たくましい子どもの育成を目指す本校の教育活動について、学校運営ビジョンの三つのスローガン「続けると本物になる」「なすことによって学ぶ」「和をもってなす」を視点に紹介していく。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

(1) 「続けると本物になる」

子どもたちが目標達成のために、コツコツと努力する、あきらめないで最後まで頑張る強い心や豊かな心を道徳教育の充実



ハートメーターをもとに話し合いを図り育てている。

① 教育活動全体での道徳教育の充実

- 多様な指導方法の工夫と話し合いの場の充実を図る指導の工夫
- 地域の人材の活用を図り、多面的な視点で価値の追究ができる授業の改善
- 自分や友達のよさを認め合う「なかたく活動」の充実と掲示環境の工夫

(2) 「なすことによって学ぶ」

本校では、体験活動、奉仕的活動の充実を図り、本物に触れながら、実感を伴った学習により、豊かな心をもった子どもの育成に努めている。

① 教科・領域指導の取組

- 操作活動や実験などを通して実際に触れ、体を動かして理解できる授業を工夫する。
- ゲストティーチャーを活用し、より専門的なお話を聞く機会を設ける。
- 見学学習を年間計画に積極的に位置づけ充実を図る。

② 農業科の取組

喜多方市の小学校の特色ある取組として農業科の指導がある。本校では、畑担当、稲作担当、総勢9名の農業支援員さんのご指導のもと、充実した栽培活動を行っている。また、

平成30年度からの3年間、「田んぼの学校」の指定を受け、関係機関と連携して、水資源調査、水生生物調査、収穫祭など更に充実した体験活動を行うことができた。



幼小交流の芋掘り

③ 奉仕活動の充実、日常化

人のために汗を流すことができる子どもを育てるために次の活動を実施している。

- 隔週の朝の時間に縦割り班で校庭や花壇の環境整備活動
- 登校班で通学路や地域のクリーン活動
- 5・6年生の朝のボランティア活動

(3) 「和をもってなす」

児童、保護者、地域の“和”を大切にし、更に連携を深めながら教育活動の活性化を図る。

① 授業における人材活用

- 保護者ボランティアの活用
年度当初に募集した学習ボランティアを年間計画に位置づけ、より充実した学習と先生方の負担軽減を図っている。
 - ・ プール授業での監視活動
 - ・ 家庭科や生活科の調理実習の補助や裁縫、ミシン指導の補助
 - ・ 校外学習の引率補助 など

○ 道徳、総合の授業での地域人材の活用

② 地域と連携して子どもの安全を守る

関柴地区では、各地区の子ども見守り隊の方が、登校時の引率や地域での見守り活動を行い、子どもの安全を見守ってくれている。また、年に3回学校や保護者との懇談会を実施し、安全に関する情報交換を行っている。

③ コミュニティ・スクールの推進

令和2年度よりコミュニティ・スクールを実施し、地域ぐるみで教育活動を活性化するため、公民館と連携した地域人材の発掘や地域で育てたい子どもの姿の策定など、貴重なご意見をいただいた。

3 むすびに

関柴地区の地域性は、関柴小学校の強みである。その強みを最大限に生かし、これからも地域一体となって、よりよい関柴の子どもを育てる教育活動が展開できる学校運営に努めていきたい。

両
沼

安全・安心な学ぶ環境づくり 自他の安全のために自ら判断し 行動できる子どもの育成

会津美里町立新鶴小学校 仁科 篤弘

1 はじめに

本校は会津美里町の北側に位置し東には磐梯山北西には飯豊連峰と風光明媚な田園地帯に位置している。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染防止のために、新しい生活様式を教職員が意識しながら子どもたちにも指導していくことが重要な年度である。十分に対策を講じながら学校行事を行い、子どもたちに身に付けさせるべき資質や能力を定着させていきたい。

そこで、子どもたちの学ぶ環境が安全・安心なものになるように、教職員が一丸となり学校経営を進めていきたい。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

東日本大震災から10年目の令和3年2月13日に福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生した。会津美里町では、震度5弱の揺れを記録した。幸い児童や学校施設に大きな被害は無かった。しかし、地震はいつ起こるか分からない。子どもたちが自主的に避難したり、自分自身を守ったりできるように意識化を図る。

(1) 火災・地震・不審者の侵入等に遭遇した際、**真っ先に児童の生命、身体の安全保持を第一に考え、危険状態がおさまるまで確実に管理する。**

- ① 教師の話をよく聞き、正しく行動する。
- ② 真剣な心構えで行動する。
- ③ 静かに敏速に行動する。
ことをねらいとする。

(2) 多様な場面を想定した避難訓練や防犯教室を各種団体と連携して行うことで実効性のある訓練にする。

- ① 防犯教室に地区の駐在所員や警備会社より講師を迎え、会津地区の声かけ事案の状況や不審者に声をかけられた時の対応を学ぶ。



避難訓練の様子

- ② 清掃時に強い地震が発生した事を想定し、縦割り班で6年生の班長が中心になり避難する。また、1月に避難訓練を行い、校庭に積雪がある状態での避難の仕方を確認する。
 - ③ 強い地震が発生した事を想定した避難訓練の後、保護者への引き渡し訓練を実施する。メールを送付し、引き渡しカードを保護者が持参し下校させる。
- (3) 交通教室を実施する際に、公道を使用することで、より実際に近い状態で歩行と自転車の運転練習を行った。安全の確保のため地域の駐在所員1名と交通教育専門員4名の協力を仰いだ。

- ① 1, 2年生は通学路の道路を使用し、歩道の歩行の仕方や踏切の横断の仕方を練習した。踏切には交通教育専門員の方について指導をしていただき安全を確保した。



交通教室の様子

- ② 3~6年生は、学校の近くに住んでいる児童が自転車を持参し、それを使用し公道の走行練習を行った。交差点での左右の確認の仕方や道路の左側を安全な速さで走る事などを体験することができた。コースには駐在所員、交通教育専門員、教職員がつき指導にあたった。
- ③ 自転車の運転技能が高くない児童については、校庭に作成した簡易コースで練習を行ってから公道に出るように配慮した。近年、小学生が自転車の運転中に、歩行者などと衝突し、加害者となる事案が増加してきている。児童には、被害者にも加害者にもなり得る危険があることを意識した上で自転車に乗るようにさせていきたい。

3 むすびに

今後も、災害や新型コロナウイルス、学校管理下での事故や交通事故の絶無を目指していく。そのためには、関係機関との連携を図りながら取り組むことで、多様な対応や予防策などを講じることができる。地域と連携した学校経営を今後とも目指していきたい。

南会津

地域とともにある学校 づくりのための連携・協働

只見町立只見小学校 伊藤 知雄

1 はじめに

新学習指導要領では、これからの学校には、「持続可能な社会の創り手」の育成を図る大きな役割を担うことが求められている。そのために、地域の人的・物的資源を積極的に活用し、社会教育と連携を図りながら、未来社会を切り拓いていくための資質・能力を子どもたちに身に付けていくことが大切であることが述べられている。

南会津支会においても、「地域とともにある学校」を目指し、「家庭・地域等連携・協働を深める学校づくり」を推進している。

以下にその内容の一端を紹介したい。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

(1) 地域の「ひと・もの・こと」の探究

南会津支会の各校では、地域の「ひと・もの・こと」を探究する地域理解学習に取り組んでいる。内容としては、生活科や総合的な



伝統芸能発表 (明和小)

学習の時間を中心に、各地域的特色を生かし、伝統文化を含めた地域の歴史、地域の自然や産業について、テーマを設定し、探究活動を行っている。このような活動を通して、子どもたちは身近な地域の価値を再発見し、より地域に誇りをもつことに結び付いている。

ユネスコスクールに認定されている只見町の3小学校では、町教育委員会と連携してESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んでいる。各校では、持続可能な只見町のために何ができるか、何をすべきかについてテーマを設定し、探究している。

また、東京大学と提携し、海洋教育にも取り組んでおり、地域のサポートを受けながら、海洋の問題や地球の環境の問題について学びを深めている。



海洋教育での田子倉湖散策 (只見小)

地域の人材や施設を活用していくことにより、学びがより深いも

のようになっていくとともに、交流を通して地域のために自分たちができることを考えるようになり、実践につながってい



地域の方といわなの稚魚放流 (朝日小)

る。このような交流は、地域に元気を発信する場にもなり、「地域とともにある学校」づくりの重要な役割を果たしている。

(2) 地域連携・協働の充実のために

これまでの成果を生かしながら、更に教育活動の充実を目指すためには以下のことが必要である。

① 教職員の地域理解

南会津支会では2～3年で異動する教職員がほとんどである。そのようなことから、学区や地域の「ひと・もの・こと」について全教職員が知見を広げる機会や実践の継続性が保てるようにするための校内研修や体制づくりの工夫が必要である。

② 地域連携担当教職員の活用

各学校では、地域連携担当教職員が地域や社会教育との連携の中心的な役割を担っている。その役割を円滑に果たすためには、地域や社会教育と双方向での連携・協働が必要であり、普段から気軽に情報交換を行える関係性を築いていくことが大切である。

③ 教科横断的な指導計画の作成

生活科や総合的な学習の時間の学びと他教科の学びとの相互のつながりを意識した指導によって、深まりのある学習活動になる。カリキュラムマネジメントの視点から、地域理解学習などでも各教科とのつながりを意識した教科横断的な指導計画を作成し、学習の基盤となる資質・能力の育成に努めなければならない。

3 むすびに

これからの時代の教育には、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要である。子どもたちが主体的に地域に関わり、課題意識を育みながら学ぶ地域理解学習は、未来を生きる子どもたちにとって大きな力となると思われる。そのためにも、「社会に開かれた教育課程」の充実を目指し、必要な人的・物的資源の発掘と確保、更によりよい連携のための体制の確立に努め、未来社会を担う心豊かな子どもたちを育成するため力を尽くしたい。

相
馬

新たな教育活動の推進 ～教科担任制の試行的導入～

南相馬市立石神第二小学校 林 典行

1 はじめに

昨年度、本校は県の事業である「ふくしまの学校キラリ向上プロジェクト（教科担任・タテ持ち推進）」に指定されたことを受け、教科担任制を試行的に導入し、研究を深める機会を得た。

今後、小学校高学年において教科担任制が施行される見込みであるが、それについて先行実践してみた結果、様々な成果や課題について教員間で共有し、今後の教育活動の改善につなげる端緒となった。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 導入の実際

高学年（5学年2クラス、6学年2クラス）で教科担任制を導入した。

国語科は1組担任、算数科は2組担任、書写は教頭、社会科・理科・図画工作科は専科が担任した。令和2年度は本事業の加配により、教務主任を含め3名の専科教員を配置することができた。このような人的支援が、教科担任制をスムーズに導入するうえで必須であるものと実感した。

また、本事業は現職教育と連動して研究を進めるようにした。1組担任が国語、2組担任が算数を受け持つことになったので、各教員は国語部または算数部のいずれかに所属し、教科担任制の検証の他、現職教育の研究主題に沿った研修が推進された。そのことが、該当学年の教員だけでなく、他学年の教員も主

5年1組担任が2組の国語科を担当

体者となって研究に関わろうとする意識の醸成につながった。

(2) 児童の変容の視点から

現職教育部で、教科担任制について児童アンケートを行った。アンケートで児童の肯定的な回答が9割を超える設問は以下の3点であった。

- 担任の先生以外が一緒に関わってくれ、と中学校生活に早く慣れると思う。

- 教科担任の先生の授業はわかりやすい。
- 担任以外の先生がいろいろな教科に関わってくれ、相談にのってくれたり、自分のよいことを認めてくれたりする先生が増えると思う。

このことから、「中一ギャップの解消」「学習意欲の向上」「学校生活全体への安心感」「自己肯定感の高まり」といった点で効果があったと言える。

(3) 教師の意識改革という視点から

教員からは、教科の専門性を生かすことができた、授業準備の効率化により働き方改革につながったという意見が大勢を占めた。

(4) 校長としての視点から

中学校では「教科の壁」という言葉が聞かれる。専門性を重視するあまり、他教科の授業に口出しすることを躊躇してしまうという意味である。小学校には「教科の壁」は存在しないが、「学年・学級の壁」はないだろうか、往時の「学級王国」は影を潜めたが、まだ学級担任だけで完結しようとする意識は中学校より高いと思う。

その壁が、教科担任制の導入によりかなり低くなったと実感している。空き時間の教員が遠慮することなく他の教員の授業を参観している姿がよく見られた。中には授業に飛び入り参加している教員もいた。学年・学級を超え、教員同士が学び合い・高め合おうとする意識は確実に向上した。

(5) 課題として考えられること

小学校教員はジェネラリストに例えられることがある。どの教科も、その特質に応じた適切な指導が求められる。現在、世代交代が進み、若手教員が多く配置されている状況を踏まえると、教科担任制により、教科によって得手・不得手が生じるのではないかと危惧される。そうならないよう、十分配慮する必要がある。

3 むすびに

本校の6年生は、3学年時、生徒指導上の問題が多発し、年度途中で担任が交代した学年である。しかし現在では、最高学年であるという意識をしっかりと持ち、落ち着いた生活態度で過ごしている。

担任だけではなく、多くの教員が様々な視点で児童に関わることにより、学習生活両面において確かな成長を促す何よりの要諦となるものと、認識を深めた次第である。

福島 今年度の活動に向けて

福島市立福島第四小学校 丹治 秀樹

1 はじめに

福島支会は、福島市（統合により2校減）と川俣町の国公立52校の会員で構成されている。今年度は、転入者・新任者計13名を迎えて活動をスタートした。学校が抱える課題やコロナ禍の学校運営について、校長間の連携を密にして情報を共有しながら活動していく。

2 本年度の取組

(1) ニーズ研修の充実

年6回の定例会のうち、第3回と第5回にニーズ研修を実施する。6月の第3回は生徒指導部が担当し、小学校で増加傾向にある不登校について事例研究を行う。12月の第5回は行財政部が担当する予定である。

(2) 支会研究の充実

8月の支会研究協議会では、東北連小福島大会（紙面開催）のDVDを視聴し、その内容を踏まえて校長の役割と指導性、働きかけについて思考ツール等を活用して協議する。

(3) 方部研修の充実

大人数で集まる機会をつくるのが難しい現在、6方部ある方部校長会での研修の機会を確保する。Web会議システムで各方部を結んで協議するなどその機能を充実させていきたい。

(4) 東北連小福島大会の紙面開催

本支会が実行委員会となっている第61回東北連小福島大会（紙面開催）の成功に向けて、大会要項・発表DVD、そして「ふくしまの絆総合版」の最終的な作成・発送の業務を確実に遂行し、東北6県各支会にこれまでの研究成果等を発信する。

(5) 人材育成に向けた組織的対応

地区中学校長会と連携して新任校長・教頭研修会、採用・昇任考査等に対応する研修を企画・運営し、人材育成に努める。

3 むすびに

学校現場は、新型コロナウイルス感染症対策を始め多様な課題に直面している。会員の英知を集集し、諸課題の解決と支え合う校長会の実現に向けて一丸となって取り組んでいく。

伊達 より堅固な結びつきで～「伊達はひとつ」～

伊達市立大田小学校 佐々木誠一郎

1 はじめに

本支会は昨年度末に大石小が掛田小に統廃合され、今年度は小中一貫校を含む、18校、会員数18名で組織されている。今後も小規模校の統廃合の動きが見られるが、会員相互の連携を一層強化し、校長会運営の充実を図っていきたい。

2 本年度の取組

(1) 研究の推進

県小学校長会研究協議会福島大会（東北連小福島大会）は紙面開催となってしまったが、三つの分科会における「校長の在り方」について研究を深めていく。特に第3分科会「知性・創造性」は発表分科会であるので、研究のまとめにあたり、会員一丸となって内容の充実を目指す。

(2) 地区研修会

分科会研修、「ICT教育」に係る研修、特別支援教育に関する研修等、年間6回の研修会を開催する。昨年度は、感染症対策により計画を変更して実施したが、今年度は対策を強化し、教育改革期における校長一人一人の力を結集し、各校の教育活動の充実を図る。

(3) 人材の育成

管理職を目指す教員対象の教職員研修講座を開催する。校長会研修と地教委研修を整理・統合し、6月から8月にかけて計6回実施する。

(4) 組織的支援体制の整備と推進

緊急時における校長会の組織による支援体制づくりを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策と教育活動の両立等、情報交換や組織的取組の工夫を図る。

3 むすびに

会員数の減少で、組織の再編と活動内容の見直しが迫られている。また、長引くコロナ禍にあって、学習活動の制限、学校行事等の中止や規模縮小も余儀なくされている。

1市2町にわたる本支会であるが、「伊達はひとつ」を合言葉に、会員同士の結びつきを更に堅固なものにし、課題の解決にあたっていくとともに、未来を担う子どもたちのために、伊達の教育を推進していきたい。

安 今年度の活動に向けて

二本松市立石井小学校 遠藤 春光

1 はじめに

本支会は、二本松市、本宮市、大玉村の2市1村の25名の会員で組織している。管理職の大量退職を迎え、今回の異動では、昇任および地区外からの異動が8名を占めた。このような状況を踏まえ、校長としての資質、経営力を高めていくこと、組織力の向上を図っていくことを全会員で確認しながら令和3年度の活動が始まった。

2 本年度の取組**(1) コロナ禍での学びの保障**

子どもたちの健康・安全が第一であることは言うまでもないが、感染症に対する慎重な対策を講じながら学びを継続していくことが今強く求められている。そこで、校長としてリーダーシップを発揮しながら学校の教育活動が進められるよう、クライシスマネジメント等に関する研修、学校間での情報共有を進めていく。

(2) 新学習指導要領における教育の充実

GIGAスクール構想におけるタブレット等の配備が進む中、その活用と授業の改善が求められている。本支会では昨年度、民間会社から講師を招き、校長自身がタブレット操作とビッグデータ活用について研修を行った。ICT環境の整備・活用を通じた教育の一層の充実に向け、校長自身の研修についてもさらに進めていきたい。

(3) 分科会研修

各方部ごとに分科会テーマに沿い、令和2・3年度の研究のまとめに取り組んでいく。

- 二本松方部 (旧二本松市)
第1分科会「経営、組織・運営」
- 東達方部 (旧安達町・旧岩代町・旧東和町)
第7分科会「学校安全」
- 南達方部 (本宮市・大玉村)
第10分科会「社会との連携・協働」

3 むすびに

各校においてタブレット配備やWi-Fi環境が整備されたことで、卒業式や入学式が3密を避けるため校内でのリモート開催に結び付いた。また、人材育成としてこれまで行ってきた実務研修会についても、本支会では、今年度はオンラインでの実施を計画している。まさに時代に対応した教育、学校運営が動き出している。

郡 今年度の活動に向けて

郡山市立金透小学校 近藤 静雄

1 はじめに

本支会は義務教育学校2校を含む全51校で、51名の会員で組織されている。様々な教育改革が進む中、会員が直面する課題について課題を共有し、協議の場や時間を確保するなど解決に向けた活動を行っている。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

本年度は、令和2・3年度の2年間の研究のまとめの年となる。「校長の在り方」に視点を当て、各学校の課題解決のための一助となるよう、組織的・継続的な研究を推進する。

(2) 方部研修会

市内5方部に分かれて、小・中学校合同の研修会を必要に応じて開催する。その中で、各学校や方部の課題と対応策、小・中学校の連携のあり方などについて協議し実践を進める。

(3) 特別研修

校長としての資質・力量の向上を目指して、年1回、外部講師を招聘した研修を開催する。

(4) 人材育成

管理職の大量退職を迎え、人材育成は急務となっている。中学校長会と連携し、管理職を目指す教員を対象とした研修会を実施する。

(5) 情報の発信

本支会のホームページによる校長会の諸活動・諸事業等の情報発信、さらには本支会の広報誌「きずな」の刊行及びホームページ掲載など、積極的な情報の発信に努める。

3 むすびに

世界中が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や感染した場合の対応など、大変大きな課題に直面している。学校においても「新しい生活様式」に準じた教育活動が必要不可欠であり、各学校の実態に応じた様々な取組がなされている。今後も、保護者や地域、関係機関との連携を十分に図り、安全・安心な学校教育の推進に努めていかなければならない。他にも、働き方改革、新時代の学びを支える先端技術の活用、虐待・いじめ・不登校など課題が山積している。未来を担う子どもたちの教育を一層充実させるために、本会において議論を深め知恵を出し合うなど、課題解決のために一丸となって取り組んでいきたい。

岩 岩瀬は「一枚岩」

須賀川市立西袋第一小学校 水沼 栄寿

1 はじめに

岩瀬支会は、1市1町1村（須賀川市、鏡石町、天栄村）22名の会員で構成されている。コロナ禍の今年度、「岩瀬は一枚岩」を合言葉に、感染症対策と学びの継続の両立を目指し、今できる最良の教育を求め、努力している。

2 本年度の取組

(1) 学校経営充実のための研修会

4月の総会、4回の地区校長会、更に各校の学校経営・運営に役立てるために、2回の学校経営研究会を計画している。

① 先輩校長の体験発表

長年校長職を勤めている先輩校長の教員人生における成功談・失敗談、教育哲学等の体験発表の場を設け、よりよい学校経営に役立てていく。

② 教育講演会

今日的な学校課題解決の一助となる教育講演会を年2回実施する。教育関係者はもとより、教育関係以外の講師も招き、幅広い研修ができるようにする。

(2) 組織的対応による人材育成

① 新任校長研修会

年3回、協議会会長・副会長による研修会を行う。校長としての心得や岩瀬地区の特質等、すぐに実践に生かせる内容である。

② 岩瀬地区教職教養講座

昇任審査を目指す先生方の人材育成と、教職員の資質向上のために、中学校長会と連携し、8月に3日間予定している。

(3) web会議の実施

コロナ対策等、緊急に対応しなければならない案件（運動会や修学旅行での対策等）についてweb会議を開催し、情報交換を行いながら共有化を図り、自校の学校経営に生かしている。

3 むすびに

コロナ禍の影響により先が見えにくい現在だからこそ、個々の校長がつながる校長会の役割はさらに大きなものになると思われる。互いの状況を理解し、共有しながらさらに結びつきを強化していきたい。

石 生まれ変わった気持ちで

平田村立蓬田小学校 石沢 泰蔵

1 はじめに

石川支会の校長会は、会員数9名という小規模組織で、一人一人が複数の役職を兼務する状況ではあるが、会員相互のつながりは強く、情報の共有や相互理解で密接な連携を保ちながら活動している。コロナ禍がまだまだ続く中、昨年度の経験を生かし、安全かつ実りの期待できるものを見極め、校長会としての活動を確実に行っていきたい。

2 本年度の取組

(1) 地区研修会

今年度も学校運営上の諸問題について、各校の問題提起を受けた話し合いの場を設けていく。特に教育界における今日的な課題である「多忙化解消に向けての取組」「特別支援教育の現状や課題」に加え、「GIGAスクール構想推進に伴う一人1台端末の活用」に視点を当てて研究協議を進める予定である。

(2) 支会研修

少人数支会であることから、分科会形式ではなく、第5分科会視点2（環境教育）を全員で取り組む。2年目は、意識調査の結果のまとめや変容の分析、各校や地域の現状を会員で共有し、実践を深めることで、内容の濃い充実した研修となることが期待できる。

(3) 確実な引き継ぎと人材の育成

昨年度末に会員の半数以上の5名が退職。4月は、新しい会となってスタートした。これまでの引き継ぎを確実に行うと同時に、内容の見直しや校長会の在り方を創造していく好機と捉え、取組や運営の改善を図っていく。

また、地区内の地元出身教員の絶対的な数の不足や、管理職志願者の減少などの現状を踏まえ、中学校長会と連携した組織的な人材の育成に力を入れていきたい。

3 むすびに

この一年、各町村では感染症に関わって、子どもやその家族を取り巻く大小様々な事案があった。本支会では、小規模の強みを生かして、その時々状況把握や取組上の課題を共有し、迅速な対応ができた。来年度には小学校の統合により会員が8名になる。今後も、日常的に情報交換できる雰囲気大切にしながら、子どもたちのために一丸となって石川の教育を推し進めたい。

直売所の挑戦から学校づくりを学ぶ

あだたらの里直売所 店長 矢吹 吉信さん

地元根ざした産直販売は勿論ですが、村に新たな食の体験の機会を与えるような企画をし、挑戦の道を探る「あだたらの里直売所」店長の矢吹吉信さん。大玉村の地域づくりのリーダー、そしてコミュニティ・スクール委員会委員を務めている矢吹さんから、挑戦者としての思いを知り、学校づくりのヒントを得るべく、共に学校づくりに取り組む大玉村立大山小学校長 舘脇一弘が対談しました。



1 挑戦は「三方よし」の精神

舘脇 直売所の売り上げが3年連続で2億円を越え、様々な挑戦をされていますが、心がけていることはなんですか？

矢吹 根底にあるのは、生産者への「尊敬」です。大玉村の農家の皆さんは、自然を相手にひたむきに頑張ります。そして、多くを語りません。そのような姿にふれると、応援せずにはいられなくなります。

直売所の売り上げを、常に前年よりも伸ばしたいと考えます。これは、生産者の所得向上のためです。ここで、売り上げを向上させるためには、消費者の満足度を上げなければなりません。同じことをしているだけではいけないのです。そして、売り上げ向上のための取組を多くの方に知ってもらわなければなりません。そのためには、発信力が求められます。

生産者と消費者をつなぎ、取組を発信するのは、私の役割です。そして、両者が笑顔になり、その笑顔に喜びを感じる私たち直売所の職員です。

舘脇 「生産者のため」とおっしゃっていましたが、校長の学校経営の在り方にも通じますね。

矢吹 私は、「つくる人、食べる人、売る人」の関係性がよければ、生活は潤うと考えています。学校は、「子ども、保護者・地域、教師」と見ることができます。三角形が整えば、全てよい方向に向かいます。「三方よし」の考えを大事にして、販売者としての挑戦をしています。

2 コミュニティ・スクールは多忙化解消のため

舘脇 矢吹さんは、どうして、労をいとわず子どものために尽力してくださるのですか？

矢吹 一言で言えば、先生方の「多忙化解消」のためです。

舘脇 大玉村の「子どもたちの笑顔が見たいから」という答えが返ってくると思っていました。

矢吹 それは間違いのないのですが、その答えは、きれいな言い方ですね。勿論、子どもたちの笑顔を求めているのですが、それが先に来ると、結局先生方の負担が多くなってしまいます。子どもたちと向き合っている先生方の負担を減らさなければ、子どもたちの笑顔には結び付きません。だから、「多忙化解消」を目指して、自分ができることをしています。



自らの使命を熱く語る矢吹さん（右）

舘脇 今後のコミュニティ・スクールに夢が広がります。これからの抱負をお聞かせください。

矢吹 おおたま村づくり株式会社では、「村づくりは人づくり」をモットーにしています。多くの人に大玉村を好きになってもらうためには、マスコミなどに取り上げてもらえるような魅力的なことを企画し、発信していきたいですね。このことは、子どもたちの村を誇りに思う心を育てることにもつながっていくと思っています。

プロフィール

- おおたま村づくり株式会社 あだたらの里直売所 店長
- 大玉村地域学校協働本部 地域教育協議会 委員長
- おおたま学園 コミュニティ・スクール委員会 副会長

春の叙勲 ~おめでとうございます~

令和3年の「春の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章 (5名)

佐藤 玄 様 元会津若松市立謹教小学校校長
征司 様 元浪江町立浪江小学校校長
関本 州一 様 元福島市立福島第一小学校校長
平田 州一 様 元福島市立三河台小学校校長
野崎 修司 様 元白河市立白河第一小学校校長
栗林 正樹 様

令和3年度 小学校長会役員

◎支会長 ○常任理事

Table with columns: 職名, 氏名, 勤務校. Lists members of the elementary school principals' association for the 2021 fiscal year.

令和3年度 小学校長会事務局員名簿

◎部長・常任幹事 ○副部長

Table with columns: 役職名, 氏名, 勤務校. Lists the staff members of the elementary school principals' association for the 2021 fiscal year.

編集後記

「変異株」、1年前にはニュースにも上らなかった聞きなれないこの言葉は今や世界を席卷し、新型コロナウイルスの感染拡大は未だ続いています。複数の都道府県に緊急事態宣言が発令される中、各学校は教育活動の制限を余儀なくされています。ワクチン接種が進み、一日も早い感染の終息が望まれるところです。そうした中、今年の春、双葉町ではコメの試験栽培に着手し、11年ぶりの田植えが行われたといううれしいニュースがありました。復興に向けた歩みがまた一歩確実に進んでいます。コロナ禍、そしてポストコロナを見据えながら、皆さんで一致団結し力を合わせれば、必ず乗り越えられるものと信じています。こうした緊急事態にも関わらず、玉稿をお寄せいただきました関係各位の皆様方に、心より感謝申し上げます。

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ◆貸し会議室
●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 (教育関係者は半額)

福島市上浜町 10-38 office@kyouikukaikan.jp
TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208

- 発行 福島県小学校長会
〒960-8107 福島市浜田町4番16号 富士ビル2F
電話024(534)5411
会長 佐藤秀美(福島市立福島第三小学校)
編集 坂本眞理・吉田牧子・唯木常晴・島田祥司・本多康弘
印刷 有限会社吾妻印刷